C.P.I.Mates The Committee for Promotion to Innovate Japanese People by Educational and Cultural Contact, since 1979

ストゥーティ ありがとう

2008. 11

No.8

認定 NPO 法人 C.P.I 教育文化交流推進委員会
発行所：C.P.I.スリランカ事務所
Mahindarama Road,Etul-Kotte,Kotte,SriLanka

日本本部；東京都三鷹市中原 2-16-9 Tel:0422-49-3808
E-mail： cpimate@gmail.com
URL: http://www.cpi-mate.gr.jp

スリランカ里子交流ツアー2008

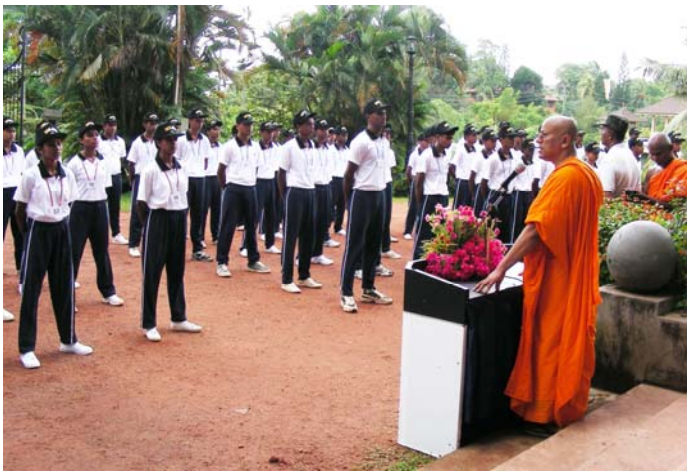
研修中の里子リーダー100 人と交流

初めて会う里子との対面に感激

報告者　牟田慎一郎

８月２５日、２組のご夫婦を含む１０名が成田空港に集合した。スリランカ航空のモルジブ経由便で、１３時２０分定刻に成田を出て、午後１０時にコロンボへ着いた。夜だったせいか、涼しささえ感じた。

翌朝、迎えの車が、要人の訪問のための交通規制に遭い、急遽ホテルのタクシーに分乗してコッテのスリランカ日本教育文化センターへ。センターでは、研修中の約１００名の里子リーダーたちを交えて、９時過ぎから歓迎の式典が行われた。



研修会の初めにチャンダシリ事務局長の訓示を聞く里子リーダーたち

里子との対面で涙

式典終了後、別室で休憩していると、１０時過ぎに里子たちが、次々と部屋に入って来た。自分の里子が、どの子か分からない人もいて、お互いにとまどいながらも、あちこちに里子と対面する里親さんたちのグループができていった。日本語の通訳は、センターの職員がしてくれたが、以前の里子、現在の里子など数名の里子に対面した里親さんは、対応におおわらわでした。

あっという間に時間がすぎ、お昼ころには、里子たちと別れを告げた。２時間ぐらいの対面だったので、里親さんの中から、「もっと時間が欲しかった！」との意見も聞かれた。私も「せめて一緒にお昼を食べたかった」という想いでした。次回はぜひそうして欲しいものです

文化三角地帯の遺跡に感動

翌２７日からは、マイクロバスに乗り、日本語ガイドのヴィプルさんの案内で、「文化三角地帯」の観光にでかけた。まず、ダンブッラの石窟寺院を訪れ、洞窟の中に造られた無数の仏像と天井一面に隙間なく描かれた壁画に圧倒されました。庭に作られた池に咲く睡蓮（国花）の美しさにも見惚れました。

その後、シギリアの岩山を見に行く予定でしたが、降雨日没のため翌日に延ばして、アマヤレイクホテルのコテージへ宿泊。ベッドに葉っぱと花びらでえがかれた「Good Night」というウェルカムメッセージに感動しました。

２８日、よく晴れたすがすがしい中、高さ約２００ｍのシギリアロックに登りました。ここでは、その中腹に「シギリアレディ」で知られる壁画に目を奪われました。１４００年前に描かれたとは思われない色鮮やかさは、時の経過を忘れるほどでした。それから、昨年はスズメバチの発生でのぼれなかった頂上へ。そこには宮殿の遺跡があり、３６０度の展望はすばらしかった。カメレオンなどもいて、不思議な空間であった。午後は、最初の首都があったアヌラダブラを見学。古いパゴダや樹齢2000年以上といわれるスリ・マハ菩提樹など、当時を偲びながら見学した。２９日、朝、ホテルのロビーでは、日課となった、宮原さん指導によるヨガ体操をして、王朝第二の首都ポロンナルワへ向かった。数々の遺跡群を目の当たりにして、スリランカの文化の素晴らしさに感動した。夕刻、キャンディへ入り、ライトアップされた夜の仏歯寺を見学。

ライトアップされた仏歯寺（上）と
水浴びする孤児の象たち

ユネスコ世界文化遺産　ダンブッラ石窟寺院

世界文化遺産　シギリアロック（上）と
シギリアレディと呼ばれるフレスコ画

３０日、ピンナワラを訪れ、沢山の象の孤児たちが川で水浴びをする様子を見学。集団で孤児院へ帰っていくときの迫力は、満点でした。

研修を終了した里子リーダーたちと交流

その後、コッテのセンターへ戻り、里子リーダーたちと再会。彼らは、一週間の研修を終え、修了式で、めいめいに修了証をもらい、私たちの前で、グループごとの歌や踊りや寸劇などを披露してくれました。私たちも、お返しに、バスの中で練習した日本の歌をみんなで数曲歌ったところ、アンコールの拍手を受け、日本の国歌まで歌いました。交流会は夜遅くまで続きセンターで夕食をしてホテルへ戻りました。

ハーモニカの伴奏で日本の歌を合唱する交流団

朝礼でお祈りをする子どもたち

折紙に夢中になる子どもたち

日曜学校の子どもたちと交流

３１日、いよいよ最後の日になりました。朝コッコッテセンターへ行き、日曜学校に集まってきたこどもたちの朝礼に加わりお祈りをした後、折紙や健康体操で交流した。午後は、待望の買い物。スーパーマーケットに行き、紅茶など思い思いの品を買い、スリランカ最後の日を楽しんだ。感動の一週間の旅は終わりを告げ、夕刻には、コロンボ空港へ。さまざまな思いを胸にスリランカを飛び立った。

この旅を最後に里親を止めようと思っていたが、里子に逢って、がんばって続けることにした人、里子へ再会を約束した人、スリランカが大好きになった人などなど、この旅を通じていろいろな感動を得ることができた。里子への支援というよりは、元気や生きがいを与えてくれる人と人との出会いの素晴らしさを感じた一週間となった。

日本の里親さんに恩返しがしたい　　卒業生会会長語る

卒業生会会長　　ニルーパ・ダナンジャヤ

今日はストゥティ新聞にメッセージを書くことが出来てコーッテ卒業生会の会長としてとても嬉しく思っております。

私の学生時代に経済的には大変困難でした。そのときに奨学金を頂いて、本当に大きな助けになりました。奨学金を下さいました日本の里親さんにいつも感謝しております。

私は今会社の部長として働いています。今経済的には余り困っていません。私はお世話になりました日本の里親さんや SNECC にいつか恩返しをしないといけないといつも思っていました。私の夢が叶え、２００７年６月に卒業生会を設立しました。私は会長になりました。私たちは初めてその卒業生会で里子３人に奨学金をあげることができました。私達の卒業生会の向上は、15人が個人的に奨学金をあげることになったことからも分かります。これからも卒業生会の皆が協力しあって、社会福祉活動に力を入れたいと思っています。

いつもスリランカの子供たちのご援助をしてくださっている日本の里親さんの皆様、そしてチャンダシリ僧侶をはじめ SNECC の皆様にお礼を申し上げます。

私の将来が明るくなりました

交流会に参加して

No.6162 カタラガマ）アーシャー・ハルシャニ

ある日突然、里親さんがスリランカに私に会いに来て下さるという手紙がきました。そのニュースを聞いてどんなに嬉しかったか言葉で説明できないぐらいです。外国の方とお会いするというのは生まれてはじめてだったので、少しこわい気持ちもありました。しかしお父さんとお母さんに実際にお会いしたときに、自分の両親に会ったような気がしました。

私はお父さんとお母さんのことをいつも思っています。私はとても嬉しいです。それは、私が里親さんに巡り会え、家族のメンバーが増えたように感じたからです。お父さんとお母さんは私の家族のメンバーのように思っています。ご親切なお父さんとお母さんにお会いしてから自分の両親と同じような愛情をもつようになりました。

私の教育の応援をしてくださると約束して下さいましたので、私も教育や将来に自信を持つようになりました。私の教育ご援助をして下さっているお父さんとお母さんは、又生まれ変わる時に私の家族のメンバーになりますように祈っています。

教育というのは海のようですが、私は目的地まで泳いでいます。目的地に近づくために頑張っている私には、日本の里親さんからのご援助は大きな力となっています。それで　私の将来が明るくなると思います。私の学業進歩のためにご協力してくださっている日本の里親さんにもう一度お会いできるのを楽しみにしています。お世話になっている日本のお父さんとお母さんに神様のお守りがありますようにお祈り致します。

父親が同行、対面に感激

私は、もう長いこと CPI の里子を受け入れており、現地にも何回か訪問したことがありますが、今回の訪問では、里子がお父さんと一緒に、夜行バスで面会に来てくれたのには、驚きもし、また感心もしました。ほかの里子のときも同じですが、私たちの援助を本当に感謝して受け取ってくれています。

我々にとってはそれほどの負担ではないのですが、里子たちにしてみれば、大きな励みになっているのでしょう。今後とも彼や彼女たちの心の支えになってやりたいと思いました。こういう機会を与えてくださった CPI の皆様のお骨折りに感謝しております。

夜行バスに乗って面会に来てくれた里子と家族と対面

ホームページを開いてください

みなさん、このホームページを開いてください。教育里子の生活や学校の様子を映像でご覧戴けます。

http:// www.cpi-mate.gr.jp /my-travel.html

C.P.I.のメインページで地図をクリックすると、里子新聞のバックナンバーも見つかりますよ。
ご友人にも知らせてあげてくださいね。

ＣＰＩ　教育　検索

日本のお父さんと夢のような再開　交流会に参加して

No.3937（コーッテ）ニリーカ・ニルーシ

スリランカ人として生まれた私には SNECC の奨学生になってから日本のお父さんも紹介して頂きました。その時からお父さんと手紙の交換をしていました。私は初めてお父さんとはお会いした日は夢のように、今でも目の前に浮かんできます。私の心は、言葉に出せないぐらい嬉しい気持ちでいっぱいでした。2000 年のある日、コーッテセンターでお父さんとお会いしました。お父さんは沢山お土産も持ってきてくださいましたが、それよりもお父さんと実際にお会いできたときの嬉しさは他のことと比べられないぐらいでした。

結婚記念写真
コッテセンター平和祈念堂にて

その後もお手紙の交換をしていて、お父さんには日本のことを色々教えて頂きました。時間がたっていきました。お父さんは 2007 年にもう一度会いに来てくださいました。初めてお会いした日よりもっと嬉しかったです。なぜなら私は前と違って色々理解できる立場にいたからです。

二回目にお会いして 1 年もたたないうちにお父さんはもう一度スリランカにいらっしゃるということを聞き、嬉しくてたまりませんでした。本当に夢のようでした。

私はもうすぐ母親になります。お父さんとお母さんの大切さがよりよく分かってきています。学生のときはお父さんとお会いできて嬉しいという気持ちだけでしたが、今は社会人として、一生懸命に私達の為に頑張って下さいましたお父さんの気持ちがよく分かるようになりました。スリランカの里子の教育ご援助をして下さっている里親さんの皆様にいつも尊敬の気持ちを持って感謝をしています。

赤ちゃんの誕生に喜びふたたび

牟田慎一郎（里親 No.1188）

今年（2008 年）1 月に結婚ということで、招待は受けていたのですが行けなくて申し訳ないと思っていましたが、　8 月の、里子交流ツアーでは、ご主人と共にセンターに会いに来てくれて、結婚祝いも渡すことができてよかったです。

そして 11 月には、赤ちゃんが生まれるという報告を聞き、二重の喜びを感じています。来年またスリランカを訪問できたら、赤ちゃんにも是非会いたいと思っています。

豊かな国になって欲しい

里子交流会に参加して

漆山正子（埼玉県）

コーッテのセンターは想像以上に、大きな施設で、驚きました。 私の里子も、立派に成長していて、現在、支援中の子は、試験中で会えなくて残念でしたが、 これからも、長くこの支援は続けて行こうと、思いました。

スリランカ人は、とても温厚で、好感がもてました。センターでも、私は、一度も指導者が、子供達をどなったりしたところを見たことがありませんでした。子供達は本当に、礼儀正しく、感心しました。 この支援で、少しずつ、豊かな国になってくれれば良いなと思っております。

里子と懇談する筆者

一途な子どもたちの気持に感銘

田林正好・淑子（埼玉県）

スリランカを訪問して、以前と変わらぬ子供達の一途な姿勢に深い感銘を受けました。そして里子達の結婚、子供の誕生のお祝いをすることができて、心の整理できた思いが致します。また、名所旧跡を訪ねることができたことはたいへん嬉しいことのひとつでもありましたが、この里子ツアーの目的はいうまでもなく里子との再会、また懇談であったはずですが、実質ひとり１０分程度しかとることができず大変残念に思いました。また子供たちの整列、踊りや劇すばらしいものでしたが、敬礼や軍人による閲兵に強い違和感を覚えたのは私どもだけでしょうか・・・

コッテセンターで朝礼のお祈りをする筆者

最近の生活環境・里子リポート

貧しくともスリランカの文化と礼儀を守っていきたい

No.5799（コーッテ）ビネスカ・デーシャーニ

スリランカは発展途上国なのでお金持ちで贅沢な生活をしている人たちもいるし、貧乏で食べ物も住むところもなくて苦しんでいる人たちも、普通の生活をしている人たちもいます。スリランカは昔、自給国だったので経済は安定していましたが、今は内戦があるため不安全な生活をしている一方で、経済も不安定になっています。これで苦しんでいるのは一般の人たちです。

石油の値段がどんどん上がっていくと同時に食料品や衣服などの必要品の値段もあがっていきます。よってスリランカではインフレーションは15%となっています。スリランカ人の主な食べ物はご飯なのでお米の値段がだんだん上がっていることは大きな問題となっています。

交通は政府とプライベートに分かれていますが、その中の４０％は政府のバスで６０％はプライベートの会社のバスです。インフレーションは交通費にも大きな影響が与えています。スリランカは電車が少ないので一般の人はバスを使って会社や学校に通います。そして三輪車もオートバイも使う人は少なくありません。三輪車はほとんどタクシーの役割

私の住んでいる村

お互いを愛し、協力しあう村の生活

アンパーラより

No.5912（アンパーラ）
ナディーシャ・プシュパクマーリ

私の住んでいる村は自然に恵まれているとても美しいところです。実り豊かな田んぼと美しい山々に囲まれている私の村の真ん中から川が流れています。「村があるとかならずお寺がある、湖があるとかならずパゴダ（仏塔）がある」という昔の言葉があります。村人は皆、朝早く起き、夜遅くまで汗を流しながら働きます。悲しみや苦しみや、不公正に負けないで皆仲良く頑張っています。

コンクリートに囲まれた環境に住んでいる人たちには私の住んでいる村の新鮮な空気を吸うことが出来ません。それはゴミや排気ガスなどで空気は汚れていないからです。お金を目的で競争している都会の人たちは、優しい心を忘れていますが、村の人たちはまだお互いに愛し合って暮らしています。有名な作家の中では田舎の美しさを書いていない人はないと思います。

どこの国でも村によって国の文化も宗教も守られています。村の農民が作っている新鮮な野菜や果物を食べる村人達は健康です。満月は皆仕事を休んで白い服を着てお寺に行ってお坊さんと一緒に仏教行事を行いながらお寺で静かに過ごします。それで体の疲れも取れ、心も落ち着かせます。

村の誰かの家にお葬式や結婚式があったら皆一緒に協力しあって、仲良く行事を行います。それはお金をもらう目的でするのではなく、皆同じ家族の人だという気持ちでやることです。

私は自然に恵まれている美しい村に生まれて、大変幸運だったと思います。このような美しい村をこれからも大切に守りましょう

をしています。

学校は国立と私立に分かれています。国立学校では教科書は無料です。１年生から１３年生までつまり５歳から１８歳まで続けて学校に通います。１０年生は義務教育となっています。５歳の時に政府の試験があり、その試験でよい成績で合格する子供には一流の学校に入ることが出来ます。１１年生で政府の試験（O レベル）があり、それに合格する学生は１２年生に上がれます。１２年生で自分の好きな分野を選ぶことができます。１３年生の試験（A レベル）を受けたら学校卒業します。大学の数は少ないため、一年に入れる人数は決まっています。よって１３年生の試験で一番高成績をとる生徒だけ大学に入ることが出来ます。

スリランカの主な職業は農業ですが、都会の人たちは皆会社で働いています。

業をしていますが、新しい技術はないため、なかなか発展しません。商人は安いお金で農民から農作物を買いますので農民は毎日貧乏のままです。自然災害や象、猪などの動物に破壊されてしまうことも少なくありません。よって農民はいつも苦しい生活をしています。

スリランカ人の生活もかわってきていますが、大切な文化、礼儀、お釈迦様の教えなど忘れてはいけません。一日でもはやくスリランカが平和になってだんだん発展していくことを心より祈っています。

スリランカ
現地事務所から

里子たちは日本語の学習に一生懸命

コッテセンターの日本語教室で学ぶ子どもたちは、一生懸命です。年に一度の日本語能力試験（12 月に実施される）に合格するために、熱心に通います。

里親さんに「日本語で手紙を書きたい」という子、学校の専攻科目の補習のために通う子など色々ですが、日本の文化に触れて喜んで学習しています。

日本に留学経験のあるハルシャさんは、教育里子の一期生でもあります。先輩として、長年の研究と経験を子どもたちに教えています。困難に打ち勝ち、後輩に日本文化を教えている彼女に投稿してもらいました。

日本語教室と私

私は10年前からセンターで日本語を教えています。最初のころはセンターで奨学金をもらっている里子の初級クラスを担当していました。一クラスに 30 人～40 人ぐらい習っていました。今は日本語能力試験 4 級、3 級のクラスと A レベルクラスだけになっていて人数は少ないです。年齢はほとんど 16 歳以上の生徒です。

外国の言葉を教えるのは本当に難しいことです。最初は文法と文字さえ覚えれば、日本語が教えられると思っていましたが、それは大間違いでした。言語を教えるためにはその国の文化、習慣、人たちの考え方なども大変重要だと言うのが分かりました。私はご親切な日本の方々のおかげで、日本に留学できましたし、いつも日本の方々と交流も続けているのでそれらの問題

は少し解決できました。シンハラ語の文章の並び方は日本語と同じなので文法を教えるのは簡単です。しかし敬語の使い方、受身、使役、接続詞などの文法はテキストがあっても説明しにくいです。一番困るのは聴解です。能力試験にも A レベル試験にも、文法と同時に会話と聴解の能力も重要ですが、それは外国人の私達には大変難しいことです。そして能力試験を目差す子どもに教える時は、前の年の出題傾向を知ることは一番大事です。しかし、私達の国では問題集は売っていないため困ります。

私もこれから勉強したいことは山ほどありますが、自分の知っていることを他人に教えるほど嬉しいことは他にはないと思います。習っている生徒が試験に合格する時の気持ちは言葉で説明できないぐらいです。道にでたら「先生！」と声をかけてくれる生徒がだんだん増えています。そんな時、私は社会に少しでも役立っているのだ思います。教える人はいつも新しい情報を集めないといけないし、死ぬまで勉強できる仕事なので私が大好きです。

私は奨学金を頂きまして、日本の皆様方のご援助によって今この立場にきています。お金をもうける目的ではなく、お世話になりました皆様への恩返しとして、私は今この活動をしています。

これからも勉強を続けながら日本語を習いたがっている人たちの役立つ者として活動していきたいと思っています。

どうか、これからも暖かいご支援をお願いいたします。

ハルシャ・ペレーラ　　2008.11.21